

# 千葉県市川市域の江戸川河川敷の昆虫

宮内博至・山崎秀雄

## I はじめに

市川市史自然編の執筆にはその資料となる自然関係の調査を行い、市史自然編資料として刊行するのがよい。幸いそれに代わるものとして、「市川市自然環境実態調査報告書2001、2002、2003」の3巻がある。ページ数はそれぞれ343、823、1033ページ、総ページ数2199ページである。本書は2001年から2003年に渡る3年間の調査を毎年積みあげ、報告書としたものである。

この調査は市川市の自然環境の基礎調査というべきもので、市史の自然編の刊行に向けた基礎調査ではないので、市史編纂に関しては充分ではない。即ち、各地域を満遍なく調べたわけではなく、生物の豊かなところを中心に調査を行っているので、市史自然編の編纂資料には不足したところが多い。それを補う意味で市川市域の江戸川河川敷の昆虫相を調査した。江戸川河川敷に生息する昆虫類とそれらがどのように河川敷を利用しているかの一端を知り、市川市史編纂の一助にし、合わせて生物多様性保全の資料となればと思う。

本稿作成にあたり、ギョウトクコミズギワゴミムシの同定と写真掲載のご許可を下さった谷野泰義氏、ミズカメムシの同定を頂いた立川周二氏と碓井徹氏、ワタラセミズギワアリモドキの同定を頂いた大川秀雄氏、カメムシ目の一部の同定・助言並びに甲虫・カメムシ目のデータ提供をして頂いた鳥越邦博氏、蝶類の分類で助言頂いた大塚市郎氏に感謝申しあげる。

## II 調査地の環境

江戸川は千葉県の西側を流れ、東京都及び埼玉県との県境となる河川である。水路幅は行徳橋より上流の市川市域は100m前後のところが多く水流は緩やかである。下流（江戸川放水路）は水路幅200mのところがある。調査地は市川市域の江戸川河川敷である。河川敷は堤防の外側、即ち、河川側の堤防斜面部とそれに続く河川敷及び抽水植物の生育する地域とした。陸地部は日常、水没や湿地になることなく堤内の陸地部同様安定している。また、都市部であることから人の入る頻度が高く、加えて、市川市は国土交通省から河川敷の土地を借り受け、江戸川河川敷緑地として野球やサッカー用グラウンド、草地などレクリエーション施設として積極的に利用